|  |
| --- |
| 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表 |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 法人名 | 宮城県高齢者  生活協同組合 | 代表者 | 丹野　幸子 |  | 法人・  事業所  の特徴 | 元お鮨屋さんを改装した室内は、壁紙の和紙がほんのりとした温かみと明るさを醸し出し、笑顔こぼれる空間を作っています。そのなかで「暮らしたい場所でのいきいきとした生活を支え、おひとりおひとりの時間を大切にした介護をしたい」という思いで平成29年に開所しました。 |
| 事業所名 | 小規模多機能型居宅介護事業所  いろり庵こぶし | 管理者 | 小岩　眞理子 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援ｾﾝﾀｰ | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
| 人 | １人 | ２人 | 人 | １人 | １人 | 人 | １人 | 人 | ６人 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項　　目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
| Ａ．事業所自己評価の  確認 |  |  | 説明を受けて全員で取組んだことがわかった。  ・安定して運営できる施設にするため、利用者の確保と職員体制の充実のためにより改善出来ることを考えていく。 | ・情報共有のために月2回の会議や毎日の昼会、交代時の申送りを実施する。  ・地域資源の情報を集め支援に活かす。  ・研修によるスキルアップを図る。 |
| Ｂ．事業所の  しつらえ・環境 |  |  | ・ロゴの赤は温かくていいなと思う。  ・毎月の全戸おたより配布など努力は認められるが訪問者が少ない。  ・しつらえについてなどは実際に行く機会がないためわからない。(開所式以来)  ・開設して1年未満なので知らせる努力を今後も実践してほしい。 | ・こぶしでの会議開催を計画し、利用者様や職員の様子を見ていただく。  ・行事開催については事前に地域や家族にお知らせし、参加していただけるよう働きかける。 |
| Ｃ．事業所と地域の  かかわり |  |  | ・職員をあまりよく知らない。  ・おたよりなどで地域には徐々に知られてきている。「鮨信」さんで浸透している。  ・件数は多くないが地域の方より相談を受けている  ・少ない回数と人数であるが地域の行事に参加している。 | ・職員はきちんと挨拶をする。  ・今後も毎月発行のチラシを町内全戸配布し事業所の活動を知らせていく。  ・町内会行事には職員の誰かが参加する。  ・「お茶っこ会」を月1回開催する。  のれんの作成 |
| Ｄ．地域に出向いて  本人の暮らしを  支える取組み |  |  | ・おたよりから色々なところに出かけているのがわかる。  ・この会議も高森地域としての一つの会議である。  ・地域の方からの相談が少しずつある | ・安全に外出する機会をつくれるように十分な計画を立てて実施する。  ・地域にサポートできる資源がどれほどあるのか情報を集める。 |
| Ｅ．運営推進会議を  活かした取組み |  |  | 地域の心配の方等の事例検討はこれから。  ・出た意見を改善につなげようとしている姿勢は見えます。 | ・運営推進会議で提案された意見を活かしながら、利用者様一人ひとりを大切にした支援をしていく。 |
| Ｆ．事業所の  防災・災害対策 |  |  | ・ここに来れば安心だと思う  ・災害時に介護が必要な方の休む場所、安全な居場所として頼りになる。 | ・避難訓練の定期的な実施と地域の方の参加も呼びかける。  ・地域の防災訓練には職員が必ず参加する。 |